

# ダカールラリー2009 クローズアップ

**Stage1 (1/3) Buenos Aires → Rosa del Pampa 1月03日**

ブエノスアイレス(アルゼンチン)→サンタ・ローザ(アルゼンチン)

リエゾン 196km SS 371km リエゾン 166km トータル 733 km

## ◆ 50万人の観衆

アルゼンチン人のモータースポーツへの情熱には一方ならぬものがある。熱いファンたちが、ダカール・ラリー2009をそれはそれは熱く歓迎してくれた。有料制のラリー・ヴィレッジへ入場したファンは2日間で8万人、そして1月2日のスタート前日には50万人のアルゼンチン人が競技者をパレードのコースを埋め尽くした。フットボールのボッカ・ジュニアが出場した時でさえ5万5千人の観衆、このダカール・ラリーに集まった観衆はその10倍近い。

## ◆ FOX SPORTS で6時間にわたる生放送

アメリカのスポーツ専門チャンネル、FOX SPORTSがダカール・ラリーの競技者紹介セレモニーの様子を生放送。6時間にわたる生放送のために、現場には10数名のカメラマンやコメンテーター、TVディレクター他技術関係者などと70名にもものぼるスタッフが配置された。

## ◆パレードもすごかった

「狂気のさた！」と、競技者セレモニーが終わり、大通りをパレードして戻った競技者一同が口にする。あまりにもたくさんの観衆による歓迎振りに圧倒され、「あまりにすごい歓迎なので、涙がでてきそうだった」と語る競技者も。「パルク・フェルメを一歩出るなり、ものすごい人に囲まれた」とトルコ人ライダー、トルンラー(Kutlu Torunlar)。「天然ドーピングだ。すごいパワーをもらえるよ」と続ける。そしてアルゼンチン人ライダーのマルセロ・ミティ(Marcelo Miti)は、大通りをパレードしている間中、「ヴァモス・アルヘンチーナ」の大合唱に包まれた。

## ◆インタビューより :マルク・コーマ(スペイン- KTM) - 002

今日のステージでは多くのトップライダーがタイヤのトラブルなどで苦しむ中、2006年大会の優勝者、マルク・コーマ(Marc Coma)-KTM、ただ一人大きなトラブルも無くゴール、ステージを制して、優勝への第1候補者となった。

「今日のステージの難点は距離をしっかりと押さえることだったと思う。慣れてないステージなので、慎重なリズムで走った。今日のコースはモトの轍がほとんど無かった。だから、できるだけトラブルを起こさないように丁寧に走った。他のライダーたちが見舞われたパンクやメカ・トラブルは、自分にもあり得ると思った。だからCP2でデプレがリア・タイヤが壊れたのを知って、自分も同じようなミスをしないよう注意して走った。」



## ◆インタビューより :シリル・デプレ(フランス- KTM) - 001

タイトル保持者、デプレはリア・タイヤのトラブルで、コーマに41分も遅れるゴールとなった。



「タイヤに穴があき、エア・チューブが破裂してしまった。タイヤがまだ良好なら修理できるが、タイヤに穴が開いているのだから、エア・チューブを交換してもしょうがない。だから、ゴールまでおとなしく走るしかないと思った。今朝はすごく寒かったのに、午後になったらものすごく暑かった。」

#### ◆インタビューより :ダヴィッド・キャストゥ (フランス- KTM) - 003

2007年大会では総合3位、今回は優勝への大きな希望を抱いて参加した。ところが、最初のステージで早くもその夢が遠のく結果になってしまう。

「今回の大会の為に、相当準備をしてきた。今日の結果は自分のこれまでの努力に値しないと思う。精一杯、これまでがんばってきたのに……。」

今朝、出発した時、少し腹が痛かった。注意しようと思いつつ、走り始めたら頭の中から注意という言葉も消えうせてしまい、アタックしまくった。ともかく、アタック、アタック、アタックあるのみ……。

150km 過ぎた辺りから少しゆるめた。燃料ストップ所まで走り、止まるとたんにタイヤがパンクした。エア・チューブを換えて走り始めたらまたパンク。運よく、後ろにチームメイトがいてタイヤを修理できた。

自分はファラオ・ラリーで優勝できた。順優勝者と1分30秒の差だった。今日日ラリー・レイドでは、分刻みで競い合う。チュニジア・ラリーでは3000kmのレースで、イシドレ・エステーヴに最後40秒差で負けた。ところが今日のステージでもう数10分も失ってしまっている。自分の為にいろいろと犠牲になっている家族のことを考えて、本当に胸が締め付けられるようだ。」



#### ◆インタビューより :カルロス・サインツ (スペイン - Volkswagen) - 301

「110km ほど走ったところで、ライダーに追いついた。舞い上がる砂埃のせいで、追い抜くのが難しく、サンチネルで合図して確認しながらようやく追い越せた。そこから砂埃は250kmも続いていた。今日のライダーは相当たいへんだと思う。ラ・パンパに到着できないライダーも相当いるようだ……。」

#### ◆インタビューより :ナッセル・アル・アタイエ (カタール - BMW) - 302

今大会最初のステージをとった、カタール人アル・アタイエは、今日のコースであまり無理をせず走って、宿敵サインツにタイムを空けた。

「我々は、優勝を目指して大会に参加している。だから、今日の結果は一步でもそれに近づけることなので、非常にうれしい。今日のコースはあまり難度は高くなく、非常にスピードを出せるコースだった。しかし、ライダーがたくさんいる部分はあまりがんがん飛ばすのは止めた。ものすごい砂埃だった。それでも、サインツに2分17秒差で勝てたのだからうれしい。今日の勝利は、



クルマが去年と全然デキが違うという証拠だと言える。新しいシャシーの車は非常に高いパフォーマンスだ。残念なのは、チームメイトのシツシエリが転倒したこと。何とか走れるようになると良いが……。彼がいないと非常にやりにくい。

#### ◆ ゲラン・シツシエリ (Guerlain Chicherit) フランス- BMW) - 315、夜中到着

CP1, CP2, CP3をトップで通過、快調に進んでいた。そのシツシエリがSSのゴールに着いたのは20時45分。

快適なリズムに乗ってド・ヴィリエの後ろを走っていたが、いきなり木の切り株にぶつかり、大回転をする事故。サスペンションが引きちぎられ、パワーステアリングを壊してしまい、フロントボディも粉々になってしまった。ようやくに真夜中にビバークにたどり着いた。(Echos 2e)



◆ クリストフ・デクレール(Christophe Declerck)-Yamaha、まさか自分が優勝するとは

「今日のステージ1でまさか、自分が優勝するとは思わなかった。」と驚いているのは、クワッド部門で優勝したデクレール自身。フランスのダンケルクのショップのオーナー、デクレールは、今回クワッドのモニターとしてダカール・ラリーに参加している。

チュニジア・ラリーで 2003,2005,2006,2007 年、クワッド部門で優勝した。そしてモロッコ・ラリーでも 2005 年と 2006 年の 2 回優勝。2006 年ワールドカップでもクワッド部門で優勝している。

ダカール・ラリーは初参加。完走できればと、無茶な夢は抱かず参加した。しかし、参加してみたら、「クワッド部門というきちんとしたカテゴリーが設置され、しかも、すごい選手が熾烈な戦いをしているんだ。」そう言うデクレールは、すっかりダカール・ラリーの闘う顔になっている。(Echos 2e)

◆ リムだけでゴールしたキャストウ  
(L' EQUIPE 紙より)

今朝、ライダーたちはスタート地点のサラディロに7時 15 分に到着した。かなりの冷え込みで、あまりの寒さに「まるでアフリカみたいだ」と一同驚いたほど。しかし、それもつかの間、日中の暑さにこんどはライダーもタイヤも悲鳴を上げる。

ライダーらはラ・パンパのすばらしい景色に見とれる暇もない。優勝候補者の3人、シ rilル・デプレ(Cyril Despres)- KTM ダヴィッド・キャストウ(David Casteu)-KTM



フランシスコ・ロペス(Francisco Lopez)-KTM らは特に、ひまわりの黄色も、とうもろこしのグリーンも目に映っていなかったのではなかろうか。3 人とも、タイヤのトラブルに見舞われたのだ。

アルゼンチンのスピードの出しやすいコースでマックスに攻めるライダーたち、しかしタイヤが要求どおりでないようだ。

「頭を使わなくてはだめだよ。」とパルアンダース・ウルヴェルスター(Pal-Anders Ullevalseter)-KTM。「市販のタイヤで、マックスにアタックするなんてできっこないと思っていた」と続ける。

キャストウとロペスはミッシュラン・コンペティションノクライアントを、そしてデプレはピレリを履いている。今年、ミッシュランが KTM の為のほとんどオーダー製品ともいえるコンペティションノデヴェロップメントを製造していない。KTM ワークスのライダーによれば、KTM モトクロスチームがピレリを使うとの決定に対する報復だという。しかし、コ

ンペティション・ディレクターのフレデリック・アンリ・ビアドゥ(Frederic Hanr-Viadaud)によれば、「そんなことはない。ミッシュランはラリー・レイドを見捨ててはいない。その証拠に、我々はミッシュラン・コンペティション／クライアントの使用を全員に認めている。それぞれの戦略によって、どちらか選択できるようにしている。」と解説する。

2度もタイヤがパンクしたキャストゥは「パンク防止のムースは、暑さが原因で消耗してしまう。エア・チューブのタイヤは、エア・チューブが破裂する。デプレはよし悪しは別としてピレリを履いてスタート台に立った。彼は 4mm 厚さのエア・チューブを入れたリア・タイヤを履き、他の者は 1mm のエア・チューブだ。その結果、自分は 1 度ならず 2 度もパンクし、しまいにはゴールまでリムだけで走る結果になってしまった。アラン・デュクロ-KTM もリア・タイヤが無くなってしまった。」

早朝の冷え込みに続く、日中の過酷な暑さ、この気候の中で、ライダーたちは今後のタイヤの選択に毎日悩むことになりそうだ。

#### ◆SS ゴールまであと 5km

ステファン・シャルリエ(Stephan Chalrier)ーベルギーーは、ゴール手前 5km でエンジン・トラブルでストップしてしまった。

「ピエール(ナヴァロ)が牽引してくれたおかげで、ゴールできた。アフリカばかりでなく、南アメリカでも助けてくれる人がいるんだ」とシャルリエ。

「コースを走っていたら、彼(シャルリエ)を見かけた。昼寝をしているのかと思ったら、エンジンが壊れて動けないという。ロードブックを見たら、あと 5km じゃないか。

ここでリタイヤもひどいじゃないか。人助けをするのもダカール・ラリーだと思ってさあ。初めて参加して、人を助けられるなんて考えたこともなかった」とピエール・ナヴァロ(Pierre Navaro、フランス)。(Echos 2°)



#### ◆新人までサイン攻め

「ブラッド・ピットがサインの仕方を教えてくれて言ったら、レッスンできるぜ」とドミニク・ブリ(Dominique Brie)、ゼッケン159。サイン攻めにあっているのは、ブリだけではない。コース沿いにもものすごい数の観衆、そして、競技者は新人、ベテラン問わずにサイン攻めだ。ブリの仲良し、フリオ・アノ(Julio Ano)、ゼッケン118も真剣にレースするより、サイクリズムに転じている。「まるで、ツール・ド・フランスのステージみたいだ。700km のコース全部に観衆が立っているんだ。信じられない。」

ライダーが燃料を補給するのに普通 10 分足らず、しかしここでは観衆に写真を求められてさらに 20 分以上もスタートできない。アフリカではこうしたことはトップスターだけだったが、ここでは一人残らず、新人まで写真を求められる。「しかも、観衆はとても行儀が良くて、丁寧で、まったくやかましくかけようとしな。本当にうれしい！」とジェローム・ペリッシエ(Jerome Pelichet)ーBowler373。「お陰で、モチベーション全開になるよ。」(Echos 2°)